

市町村指定文化財取材票 <表>

取材日	2024年	5月	30日	(記入者) 石井宏子	
取材参加者	石井	井本	西田	三谷	本井
	横山				
取材対象先	奈良市：芳徳寺の本堂				

所在地	奈良市柳生下町445				
所有者(取材 対応者)名	芳徳寺 ***住職 (個人情報守秘)		連絡先 0742-94-0204		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など： 芳徳寺				
市町村 指定文化財	彫刻 軀	名称(指定年月日)			
	建造物 1棟	芳徳寺本堂 1992(平成4)年3月4日指定			

文化財指定理由	禅宗寺院にみられる六間取りの典型的な方丈形式で、奈良市では唯一の方丈建築。 柳生家の歴史を留めるものとしても貴重な建物である。(奈良市HP) 方丈形式の本堂としては、正規の姿をとどめた上質の建築。(芳徳寺本堂修理工事 報告書)				
---------	--	--	--	--	--

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	検知器・消火器等の機器設置に加え、年に2度消防署の調査や消火訓練も行われている。	防火機器等の設置がなされており、隣接する建物に人が居る状況で、問題は無いと思われる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	イノシシ・サル・タヌキ・シカなどが出没するが、大きな被害ではない。	自然豊かな高台にあり、野生動物がいるのも自然なことだが、福祉施設が隣接、車や人の出入りもある。
保存～継承へ苦勞と今後の課題と対策	現住職のご祖父様・橋本定芳氏が寺域・建物の整備増築等の他、社会福祉法人の運営・正木坂剣禅道場の建設等にも奔走、物心両面の復興に努められ、面目を一新された。復興にあたり、氏は常に荒廃した寺内の整備の先頭に立って汗を流し、画才を活かしての地元の方々との交流や、幅広い知識で生計等への助言をされる等、縁を深められ、信頼と協力を得られた。現住職も先代に続き三代目の施設の理事長・寮長として地元と交流を続けながら多忙な毎日を過ごされている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

本堂は奈良市補助金交付を受け、1993(平成5)年10月から約2年間の工期で半解体修理が行われ、美しく保全されている。基本的には広縁からの参拝となり、併設の資料館で歴史を伝えておられる。定芳氏の奮闘は多方面にわたり、現在はそれらの施設を現住職とご親族が中心となり協力して維持運営をされている。隣接する成美学寮も定芳氏が1949(昭和24)年に開設された施設だが、設立以前は本堂で戦災孤児たちの世話をされていたとお聞きして胸が熱くなる思いだった。いろいろな変遷があり、ご苦勞が窺い知れ、後継も簡単ではないことも拝察できるものの、何とか地元の人たちと一緒に、お寺と定芳氏の思いを後世に伝えて頂きたいと願う。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	5月	30日	(記入者) 石井宏子	
取材参加者	石井 横山	井本	西田	三谷	本井
取材対象先	奈良市：芳徳寺の本堂				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 芳徳寺本堂

文化財 (室中・内陣/上間前室)



上間前室 (室中より)
猿頬天井

室中・仏間→

文化財 (全景正面写真)

広縁



鏡天井

文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域の歴史や特徴を記入

本堂は禅宗の典型的な六間取り・三室二行の方丈形式の建物で、周囲に一間の広縁を持つ。棧瓦葺、入母屋造。現在の本堂は、1714（正徳4）年、二世住職・梅堂和尚が旧礎石上に再建したもので、何度も変更・修復を重ね、明治初年の廃藩の影響を受け無住の時期もあった。当時、売り払われた位牌堂は現在、奈良の依水園に柳生堂として残っている。本尊は釈迦如来。柳生家歴代の位牌をはじめ、1650年代に造られた宗矩公・沢庵和尚の彫像等が伝わる。寺の裏手には同じく市指定文化財の柳生家墓所がある。

神護山芳徳寺は1638（寛永15）年に、柳生但馬守宗矩が亡父石舟斎宗叡の供養のため、親交のあった沢庵禅師を開山として、柳生城があった高台に創建、柳生家代々の菩提寺となった。宗矩の死後、第三代將軍徳川家光が小柳生村の200石を付与、宗矩の末子・義仙が大徳寺に預けられ、のちに第一世住職となる（号は列堂）。宝永期に火災で全焼するが、1714（正徳4）年、旧礎石上に再建された。明治の廃藩・廃仏棄釈により荒廃、廃寺の危機を迎えたが、大正末期に柳生家末裔の柳生一義氏・柳生基夫氏が資金を贈与、本堂の復旧工事が進められ、1926(昭和元年)年、橋本定芳氏が来住、再興に奔走、寺観を整え、さらに児童福祉や剣禅場の開設など物心両面の復興に尽力された。